

素材を使い分けることで演出された、ふたつでひとつのスペース

構造：木造在来工法 敷地面積：246.79㎡ ガレージ面積：20.29㎡ 述べ床面積：172.23㎡ ガレージの種類：ビルトインガレージ 収納台数：クルマ1台



白を基調とした住居部分の外壁と米松材で化粧が施されたガレージ前面の壁面、フローリング材が使用される趣味スペースの床とファッションタイルが使用されるガレージスペースの床。A邸のガレージスペースと居住部分（趣味のスペース）は、同じスペースにありながらも、素材を上手く使い分けることでそれぞれが際立つように演出されている。



異なる素材を使い分けることで、ガレージと居住部分をそれぞれ際立たせながらも、ひとつの空間としてまとめているA邸のガレージ&趣味のスペース。
家の中にガレージスペースを造ってみたという希望を持つ人にとって、A邸に施されているアイデアと演出方法は、参考になる部分が多いはずだ。

取材協力(ガレージドア):レムコ phone:042-788-2688
<http://www.remcodeor.com/>





趣味スペースだけでなく、ご覧のようにガレージスペースにもミニカーなどをディスプレイ。Aさんにとって、ここはやはりひとつの趣味の空間なのだろう。

趣味の部屋とガレージ空間を隣接し、家とガレージのデザイン的なマッチングも考える。以前から家を建てるならガレージ付きと決めていたというAさんは、設計士と綿密な打ち合わせをすることで、理想のガレージライフを手に入れることができたようだ。

写真を見ていただければ分かるが、Aさんのガレージと趣味の部屋は同じ空間にありながら、いくつかの工夫で独立したスペースとして成り立つように演出されている。その演出の一つが、ガレージと部屋を仕切っているアコーディオンタイプのドア（特注造作折戸）だろう。これはドアを開けた時の開放感を確保しながら、部屋とガレージの仕切りとしてもきちんと機能するものということで、設計を担当したワイズの山本さんが選んだものだという。

大きな開口部を確保しながらもコンパクトに折りたためるため、ドアを全開したさいのスペースが少なくすむアコーディオンタイプのドア。スペース節約に有利なこのアコーディオンタイプのドアを採用することで、ドアを開けガレージと趣味の部屋をひとつの空間とする際も、ドア自体の存在が気にならないようになっているというわけだ。そしてドアを全開し、それぞれを独立した空間として使用する際も、ドアにガラスがはめられているため趣味の部屋からガレージを見渡すことができるようになっている。

このアコーディオンタイプのドアに加え、趣味の部屋とガレージスペースの床材が切り換えられているのも、A邸のガレージ演出のひとつ。ガレージの床材にはセラミック材のタイルが使用されているが、これは玄関先のスペースと同材質・同カラーのものが採用されている。家の中のスペースでありながらガレージという特性を考え、屋外とのつながりを持たせているということなのだろう。対する“家の中”に属する趣味の部屋は、他

の部屋とのマッチングを考え、スプルースバイン無垢フローリング材が採用されている。つまりA邸のガレージと趣味の部屋のスペースは、外と中をひとつの空間の中に同時に存在させるという演出が行われているわけだ。これを前記のアコーディオンドアで仕切ること、独立した空間としてみせると同時に、ドアを開ければひとつの空間として見せることも可能となっている。このようにガレージと趣味の部屋のスペースをそれぞれ異なった床材にすることで見せる空間を演出しているA邸だが、“家”と“ガレージ”の外観も、それぞれに異なった素材を用いることで、アクセント付けが行われているようだ。

そのA邸の“家”と“ガレージ”外観のアクセント付けのポイントとなっているのは、レムコ製の木製カスタムドア。このガレージドアは、開閉時2スピード制御の安全性といった機能性やデザイン性などを加味し、設計を担当したワイズの山本さんが選んだもので、シャッター板の材質が米杉・米松・ヒバから選択可能となっている。A邸では3種類の素材の中から米松が選択されているが、実はこのガレージドアの材質こそが、A邸のガレージ部分の外観をきめたといってもいいのだ。

A邸の“家”としての内外装は白を基調としたものとなるが、ガレージ前面部分の外壁の仕上げだけは米松が使用されている。そう、これはレムコ製ガレージドアの材質と合わせたもので、これも設計を担当したワイズの山本さんの提案だという。室内同様、ガレージ部分と住居部分にそれぞれ異なった素材を使用するというこのアイデア。まったく

違和感ないどころか、しっかり家の外装のアクセントとなっているのが写真を見ればお分かりいただけるだろう。“家”部分との整合性を取るために、玄関の上の雨よけ部分に、米松のアクセントが加えられているのもポイントだ。

異なった素材を用いることで、同じ空間にある居住部分とガレージをそれぞれ際立たせるという演出が行われているA邸。演出だけでなくオーナーのAさんにとって居心地の良いスペースとなっているようで、休日や仕事帰りなどにはこの家の新築に合わせて購入したアルファ・RZのオープントップを開け、シートでタバコをすったり、本を読んだりして過ごすこともあるという。もちろんガレージに隣接されるギターや録音機材、CDなどが置かれている趣味のためのスペースも、くつろぎのためのスペースとしてAさんのお気に入りの場所となっている。ちなみにAさん、この部屋でギターをバックにした自分のボーカルを録音し、クルマの中で聞いたりすることもあるようだ。

ただ単に自宅の中に好きなクルマを置く場所を作るだけではなく、空間を演出し居心地の良いスペースを造る。もちろんこういった理想のスペースを造り上げた影には、入念かつ長い時間をかけた設計士さんとの打ち合わせがあったことも忘れてはならないポイントだろう。こんなガレージが欲しいという自分の想いと、設計士さんのアイデアがうまく重ね合わされることなくしては、理想のガレージスペースが生み出されることはないのだから。



趣味スペースのデスクの上。仕事から帰ってくると、この部屋で30分ほど過ごすことが多いというAさん。このスペースは、今やAさんにとってなくてはならないもの。

A邸のためにオーダーされた折戸により開放感あるスペースが実現されている

2階にある、この白で統一されたリビングを見てもらえば分かる通り、A邸はガレージ前面の外壁以外、内外装ともに白を基調とした色使いとなっている。





Detail CHECK

アコーディオンタイプのドア

ガレージと趣味のスペースの仕切りには、開口部が広く取れるうえ、全開時にもコンパクトにたたためドアが邪魔にならない、アコーディオンタイプのドア(特注)が採用されている。

ガレージドア

ガレージドアは、レムコ製木製カスタムドア(オーバースライディング)を使用。シャッター材を米松、米杉、ヒバから選べるので外壁の雰囲気に合わせていることが可能となっている。

内外装仕上げ

ガレージ&趣味スペース部分の壁は、クロス仕上げとなっている。これはオーナー自身が選んだものだ。またガレージ部分の外壁は、その部分だけ米松材の仕上げとなっている。

ガレージフロア

ガレージの床はセラミック材のファッションタイルを使用。これは外の仕様にあわせたものとなっている。このタイルに対し、趣味スペースの床はフローリング仕上げとなる。



アコーディオンドアを採用することで開口部が広くとれるので、ドアを全開にすれば開放感のあるひとつのスペースとして使用することが可能となっている。

Owner's CHECK

- ◎ 一番気に入っている所は?
やはりガレージとリラックスできる空間が一緒になっていることです。
- ◎ ちょっと失敗した所は?
やはり、換気扇はつけておいたほうが良かったです。
- ◎ 次の夢はなんですか?
クルマを増やして、できれば別荘みたいなガレージが欲しいんですが……
- ◎ 読者へアドバイスを!
設計士さんを選ぶことです。私の場合は年も同じだったので、話が合ったのが良かったです。

Planing DATA

施主名Aさん
家族構成:ご夫婦
竣工:2004年
車種:アルファ Romeo RZ

構造:木造2階建(在来工法)
敷地面積:246.79㎡
延べ床面積:172.23㎡
ガレージ面積:20.29㎡

外壁仕上げ:ジョリパット

ガレージ部米松羽目板

内壁仕上げ:クロス

ガレージ床仕上げ:ファッションタイル

床使用塗料:オスモ

ガレージ照明設備:オーデリック、

品番OB055213

ガレージドア:レムコ製、木製カスタムドア

アコーディオンドア:特注造作折戸

プレイルーム内壁仕上げ:クロス

プレイルーム床仕上げ:スプルスバイン

無垢フローリング

その他のガレージ設備:アルミ無垢造作

デスク、他

A邸 設計DATA & MATERIALS

Designer

設計:総合建設(有)ワイズ 山本康彦さん
address/神奈川県茅ヶ崎市松浪1-11-4
phone/0467-88-3903
URL/http://www.ys-no1.co.jp/

LAYOUT

